

第2学年保健体育科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水) 5校時
場 所 山田町立山田中学校 武道場
学 級 2年3組(男子17名、女子17名、計34名)
指導者 教諭 阿部 祐介 (T1)
講師 北村 真智子 (T2)

1 単元名 武道(柔道)

2 単元について

(1) 教材観

武道は、武技、武術から発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

武道は、中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身につけ、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにすることが求められる。また、技能の上達に応じて、基本となる技を用いた自由練習やごく簡単な試合で攻防を展開することを発展させて、得意技を身に付け、自由練習や簡単な試合で攻防を展開できるようにすることをねらいとしている。したがって、第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。

また、武道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。生徒自身が魅力を感じ、柔道の特性に触れる良い機会とし、身に着けた技などが決まった時の達成感や喜びを経験させたい。

(2) 生徒観

4月の学級編成を受けて、学級スローガン「SIMPLE is BEST」のもと、諸行事を経験し、それぞれが個性を發揮できる学級を目指して生活してきた。体育祭行事では目標とする結果を目指し、リーダーを中心に仲間と協力して団結力を高めていった。一方で、まだ、自分の意見を学級全体に積極的に発信することや、生徒間同士で主体的に活動を送る意識が乏しい生徒もみられる。

保健体育の授業については、前向きな表情で学習を行う生徒が多く、自己の記録の更新や技能の習得に向けて懸命に活動している。意欲的な姿勢で取り組む一方で、「運動が苦手」「走ることが嫌い」という生徒の割合も高い。運動に対する意欲の差の現状や男女共修であることを考慮し、単元によって体力の差や技能差に応じて工夫してグループ編成を行い、授業に取り組むことが必要と考える。

(3) 研究主題との関わり

主題である「主体的」に授業に取り組む生徒を育むために、的確な学習目標の設定を行う。生徒一人一人が課題を達成できた、できなかったとしっかりと振り返ることができるよう、学ばせたいこと、学んでほしいことを生徒に周知させるよう板書・学習プリントを作成する。また、役割や活動をサポートする係を明確にし、一人一人が責任をもち、授業に参加することができるように授業展開を行っていく。

副題に関わって

生徒指導の三機能

① 自己決定の場を与える

- ・自己の課題に対する練習方法や作戦など自分の考えをもち、自分の考えをもとに検証する場面を設定し、振り返らせる。

② 自己存在感を与える

- ・50分の授業展開の中で、全員に対して肯定的な声かけ、励ましを実践できるよう努める。振り返りの場面で特に頑張った生徒はもちろんだが、作為的に運動が苦手な生徒、柔道に抵抗感を示している生徒の頑張っていることをピックアップし、全体に伝える。

③ 共感的な人間関係を育成する

- ・生徒間同士でコミュニケーションを積極的に図れる場面を設定する（ウォーミングアップの際のハイタッチなど）。
- ・作戦や練習内容などを決める際に互いに意見を言いやすように、肯定的な雰囲気を作り出せるように努める。

学習の「見直し・振り返り」

- ・何を学ばせたいか（学習課題）、どのような内容をどのくらい行うのか（授業の流れ）を、始業の挨拶後または授業の前段で板書を利用し、わかりやすく明確に示す。
- ・単元シートを利用し、単元を通して目指してほしい姿、身につけてほしいことを明記し、生徒に単元のゴールを周知する。
- ・毎時間振り返りシートの時間を確実に確保し、課題の対する振り返るコメントを記入する。できた、わかったという結果的な内容ではなく、「なぜ」できたのか。「なぜ」わかったのかを記入させるよう意識付ける。

3 単元の目標

- ・柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする（関心・意欲・態度）。
- ・課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする（思考・判断）。
- ・相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防ができるようになる（技能）。
- ・柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などが理解できるようにする（知識）。

4 単元の評価規準 (●:第2学年 ○:第1学年 ◎:第1、2学年共通)

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
◎柔道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ◎相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ○分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ○禁じ手を使わないなど健康安全に留意している。	○技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。 ○学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	◎投げたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。	●武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ◎武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。 ◎技の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。 ○柔道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ○試合の行い方について学習した具体例を挙げている。

5 単元の指導計画・評価計画 (本時9/11)

時	学習内容	目標	評価の観点				評価規準
			関	思	技	知	
1	学習計画を確認と武道を学習する意義について考える。(知)	柔道の特性と学習の仕方を理解させる。				○	柔道の特性や成り立ちなどについて、学習した具体例を挙げている。(知) 柔道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。(知)
2	受け身の復習と受け身の意義について学習する。(技)(知)	受け身を行う意義について理解し、正しい受け身を行うことができるようにする。					
3	基本動作の崩しについて学習する。(技)	崩しの意義を理解し、相手を正確に崩すことができるようにする。			○		正しい姿勢、組み方から崩しと体さばき、受け身を関連付けて行うことができる。(技)
4	膝車を習得するための「崩し」を発見する。(思)	膝車をかけるための「崩し」の行い方を発見することができるようにする。		○			技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。(思)

5	相手を尊重した作法を行い、膝車を移動をしながら技をかけることができる。(関) (技)	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするができる。 移動をしながら膝車をかけることができるようにする。	○			相手を尊重し合うための作法、所作を守ろうとしている。(関)
6	大外刈りを習得するための「崩し」を発見する。(思)	大外刈りをかけるための「崩し」の行い方を見ることができるようにする。		○		技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。(思)
7	大外刈りを移動をしながら技をかけることができ、技をかける楽しさを味わう。(関) (技)	技をかけることの喜びや楽しさを感じるために積極的に学習することができる。 移動をしながら膝車をかけることができるようにする。	○			技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにすることに積極的に取り組もうとしている。(関)
8	体落としを習得するための「崩し」を発見する。(思)	体落としをかけるための「崩し」の行い方を見ることができるようにする。		○		技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。(思)
9 本時	課題解決に向けて「受」と「取」が協力して、体落としを移動をしながら技をかけることができる。(関) (技)	「受」と「取」が課題解決に向けて協力して学習しようとするができる。 移動をしながら体落としをかけることができるようにする。	○			仲間の練習相手を引き受けるなど、学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助しようとしている。(関)
10	三つの既習技を自己の課題に応じた練習を行う。(思)	選択した技の中で自己の課題に応じた練習をさせる。		○		課題に応じた練習方法を選んでいる。(思)
11	技の発表会、学習のまとめを行う。(技) (関)	移動している状態で「崩し」が意識された投げ技を完成させる。			○	正しい姿勢、組み方から崩しと体さばき、受け身を関連付けて行うことができる。(技)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・「受」と「取」が課題解決に向けて協力して学習しようとするができる (関)。
- ・移動をしながら体落としをかけることができるようにする (技)。

(2) 本時の指導構想

本時は、投げ技の「体落とし」を教材として扱い、授業を展開していく。前時の学習では、「体落とし」の行い方を説明し、技をかける際に重要とされている「崩し」について学習する。その際に、「崩し」における①方向、②手（腕）の使い方について着目して考え、正しい「崩し方」を理解した上で、本時を迎える。移動をしながら「体落とし」をかける技能と「受」と「取」が課題解決に向けて協力しようとする関心・意欲・態度の2項目を指導内容に展開していく。授業前段では、移動を伴わない形で立ち膝姿勢、蹲踞の姿勢、立位姿勢とスモールステップを踏ませながら学習にあたる。その後、移動を伴う形での技のかけ方について説明し、ゆっくりとしたスピードから学習を行わせる。説明の際には、ICT機材の活用、柔道部員の手本、指導者の助言などを加えながら生徒が技についてイメージしやすいように配慮する。また、移動を伴う形での学習の際は、グループを形成し、「受」、「取」、「助言者」に役割分担し、アドバイスシートを活用しながら生徒同士の中で学びが深まるよう、共感的人間関係の場を設定し展開する。崩す方向を示した教具や生徒たちの恐怖感を軽減するマットなどを準備し、安心して授業に参加できるよう配慮する。

(3) 評価規準

評価基準	生徒の学習状況		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる	概ね満足できる	
仲間の練習相手を引き受けるなど、学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助しようとしている。 (関心・意欲・態度)	アドバイスシートを活用して助言をするなど、学習課題解決にむけての言葉かけや練習を積極的にしようとしている。	アドバイスシートを活用して助言をするなど、学習課題解決にむけての言葉かけや練習をしようとしている。	肯定的な声かけを積極的に行う。 T2と能率的で効果的な個別の指導を図っていく。

展開 35分	<p>6 移動しながらの「体落とし」の習得に向けてグループで学習を行う（ゆっくりとした移動から始めるなど、スモールステップを踏ませる）。</p> <p>7 ポイントをおさえ、上手に投げている生徒に師範をさせる。</p>	<p>・男女それぞれ3名ずつグループ（11グループ）で、学習する。「受」、「取」、「助言者」と役割分担し、ローテーションしながら学習を進める。</p> <p>・仲間の動きを観察し、自己の技能習得に繋げる。</p>	<p>○仲間の練習相手を引き受けるなど、学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助しようとしている【関】【共感】。</p> <p>□技能の評価は、一定の学習機会を設けた上で11時間目を実施する。</p> <p>□安全面の点から以下の項目を周知徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた場所で学習を進める。 ・受と取は必ず礼で始まり、礼で終わる。 ・取の引き手は絶対に離さない。 <p>△恐怖心や衝撃を和らげるため、初期の段階では畳の上に器械運動用のマットを敷いて、学習を進める。</p> <p>□3人グループでの学習の中で、アドバイスシートを活用し、積極的に助言や声掛けを行う場を設ける【共感】。</p>
終末 5分	<p>8 本時のまとめ 座礼 着替え</p>	<p>振り返り</p> <p>・振り返りシートにコメントを記入する。</p>	<p>□できた、できなかったという結果的なコメントではなく、なぜできたのか、どうしたらできたのか具体的に記入できるよう促す。</p>
<p>【「振り返り」文例】</p> <p>「私は、〇〇くんにアドバイスをするなど、仲間と協力して授業することができた。腕で勢いよく引っ張ることで『受』を前すみに崩しことができた。移動しながらもそのことを意識して『受』に技をかけることができた」</p>			

【決定】：自己決定の場を与える手立て 【存在】：自己存在感を与える手立て 【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て